

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：34409

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24300099

研究課題名(和文)近代日本の身装画像デジタルアーカイブの構築 文化変容に視点を据えて

研究課題名(英文)Construction of a Image Digital Archives for Fashion, Dress and Behavior from 1868 to 1945 in Japan: focusing on acculturation of the clothing life.

研究代表者

高橋 晴子 (TAKAHASHI, Haruko)

大阪樟蔭女子大学・学芸学部・非常勤講師

研究者番号：10247885

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、明治維新以降、約80年間における日本人の「身装、身体および装い」に関する文化変容の実態を当時の世相を十分に反映した、同時代の新聞・雑誌記事中の挿絵および写真、新聞・雑誌の小説挿絵、一枚ものの写真、図書中の図版など、約1万件の画像資料を検証し、その成果としてデジタルアーカイブ化を図り、書誌情報のほか、年代、シソーラス、キーワード、コメント等による検索機能を付与した。また、すでに国立民族学博物館で公開している<近代日本の身装電子年表>と相互に補完する形で検索ツールの実現を目指し、近代日本の身装文化を画像・年表形式に配列された文字情報の両面から検索可能なシステムを完成した。

研究成果の概要(英文)：This research achieved construction of the <Image Digital Archives for fashion, dress, and behavior from 1868 to 1945 in Japan> that is useful for the study of acculturation of the clothing life in Japan. This digital archives is a database made by using the archives came from contemporary newspapers, magazines and books. The current sum total of image data is about 10,000 items. This digital archives has the retrieval function by bibliographical information, thesaurus, key words, and comments, etc. Moreover, it aimed at the achievement of the search tool connecting the < Digital Chronology for fashion, dress, and behavior from 1868 to 1945 in Japan> that is available on the website of National Museum of Ethnology. As a result, the system that is able to retrieve information in images and chronological texts on the whole of acculturation of clothing life in Japan at that time, completed from these two databases.

研究分野：人文学

キーワード：身装 身体と装い 服飾 衣文化 近代日本 文化変容 データベース デジタルアーカイブ

1. 研究開始当初の背景

本研究が対象とする近代(1868~1945年)は、和装と洋装が拮抗し、日本人の衣生活の基本スタイルが洋装に移行していく重要な時期であった。それにもかかわらず、研究が欠落しているのは、資料は豊富に存在しているにもかかわらず、研究ツールが欠落しているためである。とくに2000年以降は、国内において、当該期間に関する研究が増加する傾向にあるため、本デジタルアーカイブを実現するものである。次に実現の見通しがつくに至った経緯を記す。

平成18年度~20年度の基盤研究((C)一般)『近代日本における身装電子年表の構築—身体と装いの文化変容』によって、当該期間の各年の具体的な身装の態様を、時系列に把握することのできる《近代日本の身装電子年表》を構築し、国立民族学博物館のウェブサイトからの公開を実現した。本電子年表では、事柄に関する記述が主で、画像が従の関係となっている。これに対して、画像が主となる「身装画像デジタルアーカイブ」の構築は、時系列に得られる事柄を補完するツールとして必須であることを、本電子年表の構築に取りかかると同時に認識していた。なお、本研究の着手の後押しとなったのは、電子年表の当面の利用者である身装の研究者のほか、文学・歴史等の分野からも、当該期間の画像情報に対しての強い要請があったためである。

一方、国外の研究者においても、身装にかかわる「近代の日本」への関心は高いが、研究のためのツールが十分ではないために、研究内容が一面的になりがちである。

また、デジタルアーカイブ化を予定している同時代の画像資料1万件のうち、半分弱はスライドおよび酸性紙のままで劣化が著しい状態にあり、早急にデジタル化を実施する必要があった。

なお、本申請書の研究代表者と研究分担者および連携研究者等で構成しているMCD(民博コスチュームデータベース)プロジェクトでは、上記の《身装電子年表》を含んだ〈服装・身装文化データベース〉を、文系と理系の研究者が常に連携を図りながら、1984年から公開してきている。そのために、豊富なアーカイブズ資料の集積がなされていたこと、デジタルアーカイブ構築のための人材がそろっていたこと、さらには本デジタルアーカイブ完成時には、〈服装・身装文化データベース〉のひとつのデータベースとして公開可能な環境が整っていたことも、本研究にとりかかる大きな手がかりとなった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、明治維新以降、約80年間における日本人の「身装—身体および装い」に関する文化変容の実態を当時の世相を十分に反映した新聞・雑誌記事中の挿絵および写真、新聞・雑誌の小説挿絵、一枚ものの

写真、図書中の図版(明治初期の絵双紙類を含む)など現在日本で判明している約1万件の画像データ資料を検証し、その成果としてデジタルアーカイブ化することである。デジタルアーカイブ化にあたっては、書誌情報のほか、年代、シソーラス、フリーキーワード、コメント等による検索機能を開発するとともに、文化変容にかかわる重要テーマ約250についての参考ノートを付与することにより、近代日本の身装文化における変容の全体像を把握可能とする。また、現在公開中の《近代日本の身装電子年表》等と本デジタルアーカイブが相互に補完する形で、検索ツールの実現を目指し、近代日本の身装文化を画像・年表形式に配列された文字情報の両面から検索可能なシステムを完成する。

3. 研究の方法

本研究は文理連携が図られてこそ実現するものである。そのためには、メタデータの付与、システムの開発、システムの評価等の役割分担を明確にしながらか構築の段階毎に全員の意思の疎通をはかる必要があった。1年目に約1,000件のデータを用いてプロトタイプを作成し、メタデータとシステムとの妥当性を検証した。2年目には、1年目に決定したシステムをデータ・システムの両面から検証・利用実験を試みた。3年目は、目的の1万件からなるデジタルアーカイブを完成させ、著作権切れの画像約6,000件についての検索の有効性を確認し、《身装電子年表》とのリンクも実現した。

より具体的な研究方法は次の通りである。**(1)** デジタル化の対象となる資料を科学的に検証、**(2)** 適切にメタデータを付与、**(3)** 使いやすいユーザインタフェースを備えた検索環境を開発、**(4)** 《近代日本の身装電子年表》および**(5)** 《身装文献データベース》と有機的にリンクを張る。

(1) については、画像資料の選択基準として、文化変容にかかわる約140の重要主題を設定し、これらの主題を前提に新聞・雑誌中の挿絵等の検証を実施し、約1万枚を選択した。このうち著作権切れは約6,000件であり、まずはこれら著作権切れのデータを公開する。残りの4,000件については、将来、著作権が切れるに従って順次公開していくことを原則とする。

(2) については、15項目のメタデータを準備し、とくに次の2つの項目について、その妥当性を明確に検証した。

第一には、シソーラスの妥当性を画像資料に付与することにより検討した。なお本シソーラスは、3つの概念—情景、身体・着装の態様、身装アイテムのもとに、用語を階層的に設定していくのが特徴であり、優先語を選ばず、同義語・類義語をコード化して、身装画像概念コードとしている。

第二には、年代不明の写真について、年代判定の基準に女性の髪型を用いる有効性を

事前に検討し、この基準の妥当性については、写真資料を用いて検証をおこなった。

(3) については、研究分担者が、渋沢栄一記念財団「錦絵絵引データベース」のサービス開発を手がけた国立情報学研究所の連想情報学研究開発センターのメンバーであった経験を生かして、まずは、約 1,000 件の画像データを利用しながら身装画像のデータベースを構築し、それを土台にデータ、システムの妥当性を検証した。そこで発生した問題を解決し、1 万件の画像データに対してメタデータを有効に機能させ、かつ使いやすいユーザインタフェースを備えたシステムの開発を行った。

(4) については、《近代日本の身装電子年表》と本デジタルアーカイブとが補完の関係を持つために、《身装電子年表》の改良を行った。データについては、どのレベルでリンクを張るかについての課題、システムについては、電子年表とデジタルアーカイブがそれぞれの検索ツールとして機能するための課題を解決した。

(5) については、《身装文献データベース》とのリンクを張るにあたって、文献用のシソーラスと画像用のシソーラスとの整合性を図り、そのためのシステム開発を行わなければならない。この課題は、費用と時間の関係上、今後の課題とした。

4. 研究成果

上記の研究目的ならびに研究方法によって開発された身装画像デジタルアーカイブ<近代日本の身装文化>の内容は、次の通りである。

メタデータの項目は、次の 14 項目からなる。1) ID No.、2) 年代、3) 出典資料、4) 作成者 (画家・作者)、5) 絵のタイトル、6) 小説のタイトル、7) 小説の作家、8) セット画像、9) 地域、10) 男女別、11) コメント、12) 身装画像コード (シソーラス)、13) フリーキーワード、14) 著作権

挿絵、図、写真に上記のメタデータが付与されている。さらには、文化変容の重要テーマ約 250 に関する 1,600~2,000 文字の参考ノート全体が検索対象となっている。

本デジタルアーカイブは、検索ボックスに言葉および概念コードを入力して検索をする以外に、「身装画像コード」、「制作年代」、「制作者」のプルダウンメニューが用意されているため、とくにこの分野についての知識がなくても検索が可能であり、同時に近代日本の身装文化に関する総合的な学習を行うことが可能である。

つぎに、検索画面、プルダウンメニュー例、検索結果例、参考ノート例、およびリンク先となる《近代日本の身装電子年表》改良版の表示画面を示す。

検索結果については、身装概念の 3 つの概念—情景、身体・着装の態様、身装アイテムに従って、それぞれの検索結果例を示す。検索ワードは、身装周辺の情景として「食卓風景」、着装例として各種職業につく人「郵便配達夫」等、身装アイテムとして「鳥打ち帽」である。

a) 「近代日本の身装文化」 検索画面



b) プルダウンメニューの例 (「身装画像コード」より)



以下、検索項目「キーワード」に検索語を入力して検索した検索結果例

c) 身装周辺の例 「食卓」で検索



d) 着装の検索例

① 「郵便配達夫」で検索



② 「車夫」で検索



③ 「芸者」で検索



e) 身装アイテムの例

「鳥打ち帽」で検索



f) 参考ノートの例 (テーマ: 身装の周辺に関するテーマのうち「交通」を表示)



この参考ノートは、近代(1868-1945)の約80年間においてメルクマールとなる文化変容にかかわるテーマ約250についての解説である。必要に応じて、すでに公開している《近代日本の身装電子年表》とリンクを張る予定である。次に本電子年表の改良版の表示画面を示す。

g) 《近代日本の身装電子年表》の表示画面



5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ① 丸川雄三、身装画像におけるモチーフの分析と絵引の研究、情報処理学会、人文科学とコンピュータ研究報告、査読無、Vol. 2015-CH-105, No. 2, pp. 1-2
- ② 津田光弘、「近代日本の身装電子年表」の改良と実装について、第20回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」発表論文集 査読無、Vol. 20, 2014, pp. 21-26
- ③ Yuzo, Marukawa、Involvement with the Business History Image Index Project. Rediscovering Shibusawa Eiichi in the 21st Century, Shibusawa Eiichi Memorial Foundation, edited by Gil Latz、査読無、Vol. 2014, 2014, pp. 226-228
- ④ Haruko, Takahashi、Acculturation of the Clothing Life in Japan Seen from Digital Archives of Dress, Fashion and

Behavior. International Conference on Culture and Computing 2013、査読有、Vol. 2013、2013、DVD

- ⑤ 丸川雄三、身装画像データベース「近代日本の身装文化」の構築、情報処理学会、人文科学とコンピュータシンポジウム論文集、査読有、Vol. 2013、2013、pp. 233-236
- ⑥ Yuzo, Marukawa、Cultural Heritage Online: discovering the possibilities of a digital archive. Art Libraries Journal、査読有、Vol. 38、2013、pp. 6-10
- ⑦ 丸川雄三、連想検索「想-IMAGINE」とデータベース、日文研、査読無、50 巻、2013、pp. 34-38
- ⑧ 丸川雄三、中村佳史、高橋晴子、身装画像デジタルアーカイブにおける連想的情報統合の試み、国際シンポジウム ICOM=CECA アジア太平洋地区研究集会予稿集、査読有、Vol. 2012、2012、pp. 65-66

〔学会発表〕(計 26 件)

- ① 高橋晴子、「工芸研究とデジタルヒューマニティーズ」活動コメント：〈服装・身装文化デジタルアーカイブ〉構築の観点から(招待講演)、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「京都における工芸文化の総合的研究」(立命館大学)国際シンポジウム、2015 年 2 月 22 日、立命館大学衣笠キャンパス
- ② 丸川雄三、郵政博物館収蔵資料データベースの公開と文化遺産オンライン、第 86 回日本アート・ドキュメンテーション学会研究会(招待講演)、2015 年 2 月 22 日、郵政博物館
- ③ 丸川雄三、身装画像におけるモチーフの分析と絵引の研究、第 105 回人文科学とコンピュータ研究会、2015 年 1 月 31 日、大阪国際大学守口キャンパス
- ④ 丸川雄三、デジタルアーカイブの楽しみ：文化遺産オンラインから実業史錦絵絵引まで、第 440 回みんぱくゼミナール、2015 年 1 月 15 日、国立民族学博物館
- ⑤ 津田光弘、「近代日本の身装電子年表」の改良と実装について、第 20 回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」2014 年 12 月 20 日、近畿大学
- ⑥ 丸川雄三、フォーラム型情報ミュージアムに基づく研究資料のデータベース化とその活用、科学研究費研究成果公開促進費(データベース)研究会、2014 年 9 月 13 日、国立民族学博物館
- ⑦ 八村広三郎、モーションキャプチャーデータによる身体動作データのデータベース公開、科学研究費研究成果公開促進費(データベース)研究会、2014 年 9 月 13 日、国立民族学博物館
- ⑧ 津田光弘、身装電子年表の改良およびタブレットワークの支援ツールについて、科学研究費研究成果公開促進費(データベース)研究会、2014 年 9 月 13 日、国立民族学博物館
- ⑨ 大丸弘、身装画像データベースにおける項目「コメント」の役割、科学研究費研究成果公開促進費(データベース)研究会、2014 年 9 月 13 日、国立民族学博物館
- ⑩ 久保正敏、民博における「フォーラム型情報ミュージアム構築」の理念と梅棹アーカイブズの整備、科学研究費研究成果公開促進費(データベース)研究会、2014 年 9 月 13 日、国立民族学博物館
- ⑪ 丸川雄三、連想検索技術を用いた身装画像デジタルアーカイブの発信研究、第 258 回・民博研究懇談会、2014 年 6 月 18 日、国立民族学博物館
- ⑫ 丸川雄三、文化財情報発信における画像資料の活用について、電子情報通信学会パターン認識・メディア理解研究会、2014 年 3 月 14 日、早稲田大学
- ⑬ 丸川雄三、身装画像データベース「近代日本の身装文化」の構築、人文科学とコンピュータシンポジウム、2013 年 12 月 14 日、京都大学
- ⑭ Haruko, Takahashi、Acculturation of the Clothing Life in Japan Seen from Digital Archives of Dress, Fashion and Behavior. International Conference on Culture and Computing、2013 年 9 月 17 日、立命館大学朱雀キャンパス
- ⑮ 八村広三郎、祇園国際バーチャル山鉾巡行、文化資源研究センタープロジェクト、科学研究費基盤 B プロジェクト合同研究会、2013 年 9 月 12 日、国立民族学博物館
- ⑯ 津田光弘、身装年表の HTM5 化について、文化資源研究センタープロジェクト、科学研究費基盤 B プロジェクト合同研究会、2013 年 9 月 12 日、国立民族学博物館
- ⑰ 田中昌美、服装・身装文化データベースのユーザーインターフェースの評価、文化資源研究センタープロジェクト、科学研究費基盤 B プロジェクト合同研究会、2013 年 9 月 12 日、国立民族学博物館
- ⑱ 大丸弘、身装画像データベースにおける項目「参考ノート」の役割、文化資源研究センタープロジェクト、科学研究費基盤 B プロジェクト合同研究会、2013 年 9 月 12 日、国立民族学博物館
- ⑲ 丸川雄三、身装画像の分類支援と「絵引」による発信、文化資源研究センタープロジェクト、科学研究費基盤 B プロジェクト合同研究会、2013 年 9 月 12 日、国立民族学博物館
- ⑳ 高橋晴子、服装・身装文化データベースと HuTime、文化資源研究センタープロジェクト、科学研究費基盤 B プロジェクト合同研究会、2013 年 9 月 12 日、国立民族学博物館
- ㉑ 丸川雄三、中村佳史、高橋晴子、身装画像デジタルアーカイブにおける連想的情

報統合の試み、国際シンポジウム ICOM=CECA アジア太平洋地区研究集会、2012年12月1日、国立歴史民俗博物館

- ⑳ 丸川雄三、東京文化財研究所第46回オープンレクチャー「モノ/イメージとの対話」(招待講演)、2012年10月20日、東京文化財研究所
- ㉑ 高橋晴子、身装画像デジタルアーカイブの構築：データに関して、「世界の布文化データベースの構築」研究会、2012年10月5日、国立民族学博物館
- ㉒ 丸川雄三、身装画像デジタルアーカイブの構築：システムに関して、「世界の布文化データベースの構築」研究会、2012年10月5日、国立民族学博物館
- ㉓ 中村佳史、身装画像デジタルアーカイブの構築：広報サイトに関して、「世界の布文化データベースの構築」研究会、2012年10月5日、国立民族学博物館
- ㉔ 丸川雄三、アーカイブの活用と連想：文化遺産オンラインと実業史錦絵絵引の紹介、第188回日文研木曜セミナー、2012年6月21日、国際日本文化研究センター

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

- 出願状況(計 0 件)
- 取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

国立民族学博物館 服装・身装文化資料データベース

<http://htg.minpaku.ac.jp/menu/database.html> (日本語版)

http://htg.minpaku.ac.jp/menu/database_eng.html (英語版)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 晴子 (TAKAHASHI, Haruko)
大阪樟蔭女子大学学芸学部・非常勤講師
研究者番号：10247885

(2) 研究分担者

丸川 雄三 (MARUKAWA, Yuzo)
国立民族学博物館先端人類科学研究部・准教授
研究者番号：10390600

(3) 連携研究者

久保 正敏 (KUBO, Masatoshi)
国立民族学博物館文化資源研究センター・教授
研究者番号：20026355

大丸 弘 (DAIMARU, Hiroshi)
国立民族学博物館・名誉教授
研究者番号：40090708

八村 広三郎 (HACHIMURA, kozaburou)
立命館大学情報理工学部・特任教授
研究者番号：70124229

猿田 佳那子 (SARUTA, Kanako)
同志社女子大学生活科学部・教授
研究者番号：10196313

田中 昌美 (TANAKA, Masami)
愛知大学中部地方産業研究所・研究員
研究者番号：60410908

中川 隆 (NAKAGAWA, Takashi)
国立民族学博物館情報システム課・専門職員

津田 光弘 (TSUDA, Mitsuhiro)
イパレット・代表

谷本 滋 (TANIMOTO, Shigeru)
星薬科大学総務部・担当部長

中村 佳史 (NAKAMURA, Yoshifumi)
国立情報学研究所コンテンツ科学研究系・研究員